

第 32 回榎野川河口域・干潟自然再生協議会の議題の審議結果について

1 書面開催期間

令和4年12月1日（木）～令和4年12月15日（木）

2 結果

(1) 回答数

23 委員（60 委員中）

(2) 議題

- | | |
|---|-------|
| ① 第 10 期協議会委員について | ・・・承認 |
| ② 2021 年度活動報告 No. 18 ニュースレター | ・・・承認 |
| ③ 2021 年度ふしの干潟いきもの募金の実績について | ・・・承認 |
| ④ 2021 年度収支報告書、貸借対照表、財産目録 | ・・・承認 |
| ⑤ 2022 年度ふしの干潟いきもの募金の収支見込及び支援対象活動の案について | ・・・承認 |

3 議題に対して寄せられた御意見等

(1) 第 10 期協議会委員について

浮田顧問及び山本委員の所属の役職変更、南條委員の個人委員への併記、石田委員の異動による多賀委員への変更及び中国四国地方環境事務所の代表者等の変更について、名簿の修正を行いました。

(2) 2021 年度活動報告 No. 18 ニュースレター

・ニュースレターだけでも年度当初等に臨時に議事にかけて配布をされたらよかったですかと思えます。

(3) 2021 年度ふしの干潟いきもの募金の実績について

・2021 年度の成果報告を読ませていただいて、かなりよくまとまってきた印象を受けました。22 年度は予算縮小の影響を受けて、焦点を絞らざるを得なくなったようですが、関係者の皆さまの継続的なご協力よろしくお願いたします。

(4) 2022 年度ふしの干潟いきもの募金の収支見込及び支援対象活動の案について

・過去資料に遡って確認する時間はありませんが、募金額が少なくなったために支援活動を絞る必要があるということですね。やむなしと思います。
・2022 年度の研究関連予算として 20 万円を上限に要望をいただいたようですが、今後の予算の活用として、2022 年度は一律に 5 万円と縮小し、今後の予算の状況に応じて、継続した活動へと重点的に配分されることに賛同します。

(5) その他

・それぞれ面白い活動をされているので、今後コロナが継続していても、オンライン発表会などで発表を聞けるようにすればよいのではないのでしょうか。
・もうそろそろ委員会のハイブリッド開催も考えてよいころではないのでしょうか。機器については、山口大学で協力できます。
・干潟再生に向けた協議会も長く継続してきましたが、今一度再生に向けた指標を整

理し、その課題及び解決の活動計画を再考し、効果を確認するということを定量的手段により判断する仕組みの構築を、また他の干潟の再生を目指している団体とのコミュニケーション、連携を、そして大きな環境分野の力となり、社会の理解を得る干潟再生にすべく活動へ発展することに期待しています。

4 事務局補足

コロナ禍が続き、対面での協議会の開催や、他の自然再生団体との連携などが実施できていない状況です。

今後の協議会において、オンラインとのハイブリッドでの開催を検討し、各ワーキンググループの取り組み状況の発表や、ふしの干潟いきもの募金での実績報告の発表などをまず行い、現状の取り組みや課題を共有の上、他の自然再生団体との連携等をしていきたいと考えています。